

お客さま、明けましておめでとうございませう。お正月はいかがお過ごしでしたでしょうか？本年も宜しくお願ひ申し上げます。

さて、お正月といえはおせち料理。お重箱に黒豆、数の子、田作り、海老、くわいなど、縁起が良いとされる料理の数々が色鮮やかに組み込まれ、まず目を楽しませ、華やいだ気持ちにさせてくれます。それ以外にも地方独特の食材を使った料理が食卓に並ぶのではないかと思います。その中のひとつにお雑煮があると思いますが、ひとくちに雑煮といっても各県、地域によって入れる具材、味付け、餅の形、焼き餅にするか、煮餅にするか、などの違いが際立つ料理のようです。私が子供のころから食べている雑煮は、大根、ニンジン、ゴボウ、こんにやく、ネギ、刻み油揚げ、カマボコ、そしてサイコロ状に切った塩引き鮭、そして最後にイクラを入れた具沢山なものでした。味付けは醤油ベース、お餅は角餅です。各家庭、地域によって多少異なる具材や野菜の切り方は異なるとは思いますが、具沢山で味付けは醤油ベース、餅は角餅、というのが新潟の雑煮の定義で、私もそういうものだと刷り込まれているので他の県に仕事や旅で行ったときに違う雑煮が出されたら、そこではそれがスタンダードなんだなと思ってしまうので他の県に仕事や旅で行ったときに違う雑煮が出されたら、そこではそれがスタンダードなんでしょう。このように旅行中に接した異なる定義はあくまでも一過性のものであり、楽しむことはできますが、これが日常の中で頻繁に違いが起きるとなると、なかなかそう楽しんでいられないかもしれません。

よく家庭内で食べ物の味付けのことで大喧嘩に発展してしまったという話を聞くことがあります。食ひとつ取っても日本人同士でさえ生まれたエリアの違いなどでもそうなるわけで、ましてや食文化だけでなく生活習慣や宗教、思想、言語など異なる国が相手であればなおのこと関係性は難しいでしょう。

お正月料理の雑煮の違いの話題から飛躍してしまいましたが、ほんの些細なことが火種になって大きな諍いが起きてしまう可能性が常にあるということを認識し、違いがあつて当たり前であるという前提でコミュニケーションをとること、簡単なようで実はとても難しいと思えますが、心掛けて行かなければと思っております。

昨年はロシア・ウクライナ紛争で多くの命が失われました。そして今なお続いています。接している情報だけで全て把握は出来ませんが、人の命の重さは同じであること、ひとたび失えば取り返しがつかないことだけは確かであり、一刻も早い終結を願ってやみません。

昭和の秘境は男子禁制

生産部 資材 島貫 修一

秘境という言葉から思い浮かぶのは、人跡未踏の山奥や密林に絶海の孤島のような、行くのが困難で知る人も少ない場所だろう。それでは同じ秘境でも意味を拡大解釈してみても、普通の男性が入れずその実態が知られていない所も秘境にしてみよう。例えば女子寮。男子禁制でうかつに近づくと不審者扱いされかねない危険地帯だが、子供の時にあったことがある。

父の勤める紡績工場近くの社宅に住んでいた頃、叔母（母の妹）も同じ工場の敷地内にある女子寮に居り、彼女は幼い私を時々女子寮に連れて行ってくれた。母の話では叔母は私を寮の友人たちを楽しませるための「お土産」にしていたそうだ。工場の門前で撮った写真には、叔母とサロペットパンツ姿の4才くらいの私が写っている。あの頃は可愛かったのだ（自画自賛）

寮に入ると長い廊下の片側に部屋が並んでいて、部屋ではお姉さんたちが歓迎してくれた。お菓子をもらったり一緒に遊んだりしていたら、誰かに風呂に誘われた。彼女たちは交代勤務で働いていて、朝早くからの勤務の人たち用に昼過ぎから浴室が開いている。男性でも子供の時に銭湯や温泉の女湯に入った人は多いはず。でも女子寮の風呂はどうだろう。

広い大浴場の真ん中に丸い大きな浴槽があり、湯気で霞む室内には頭にタオルを巻いたお姉さんたちがいた。彼女たちは身体を洗い湯に浸かってくつろいでいるが、なぜか記憶に鮮明に残っているのは頭に巻いたタオルだけで、それ以外は不鮮明・・・残念？

数百人の若い女性の中に男性は私一人の恵まれた環境（大奥だ）で可愛がってもらったなんて、私の人生最初のモテ期だったようだ。しかしいまだに次のモテ期が来ないのは、モテるためのフェロモンを幼い頃に使い果たしてしまったのかもしれない。何せ相手は数百人もいたのだから。



今、はまっていることは？

■【逃避行】

取締役 田中 一浩

今はまっていることって何だろう？ 今更色んなことに興味が湧いて、あれやこれやと手を出す年でもないし、今度生まれ変わったら何になりたいかを考える様にもなったし。

だけど、今というか、コロナが日本に広まったここ3年ほどは、GoTo トラベルとか県民割りとか、名称は変わるけど簡単に言えば補助金を使って、近場や隣の温泉に結構行っているような気がします。数えてみたら、一昨年は8月の出湯温泉を皮切りに6回、昨年は10回、今年も10回行っているので合計26回行った様です（多いな）。無意識のうちに現実逃避しているのかと思ってしまう。

「日本秘湯を守る会」という温泉宿の組織があります。設備の近代化を良しとせず、時代の流れが止まったままの木造建築であったり、何とも渋い浴室や、妙に熱い温泉などを売りに、全国185軒が加盟しています。

会員の宿に泊まるとスタンプ帳にスタンプが貰え、10個貯まると1軒無料で宿泊できます。今スタンプ9個です。リーチです。現実逃避でも何でも良い。温泉巡りは続きます。



■【声】

基幹事業サポート 小川 史朗

これまでの日本社会では「声の文化」はそれほど重要視されてこなかったせいもあると思うが、声のでるのが当たり前と思っていた。聾啞者の方もいらっしゃるが、自分が聴ける状態に、疑問もなかった。コロナ禍で人との接触が制約され、マスクをしたり、大声が少なくなり、漸くなぜと思い始めた。意識していると、やはり声の専門家が沢山おられる。ボイストレーナーの方や、アメリカでは政治家が説得力のある演説をするために、言葉の内容だけでなく、きちんとした発声法が必要で、大統領などには大学教授が顧問となりついてまわっているのだそうだ。

声のもとには空気の流れて、声帯が振動する音ではないとのこと。声帯は気管の入口についている左右の粘膜隆起で、二本のゴムのように伸び縮みするそうです。この声帯を通過する音は、誰もがブオー、ブオーというひどい音。この音源が声帯より上にある空間や空気の通り道で共鳴して、普段耳にしている声に変化するのだとか。喉頭、咽頭、口、口の開け方、鼻道、頭蓋骨など空気を含んだ部分が全て共鳴する。声の個人差は、この微妙な共鳴の違いだそうです。

ちなみに当社では、毎朝体操時にマスクをしながらの発声練習が日課になっています。

「新洋技研からサラリーを得る傍ら、プライベートでは釣り・山菜取り等を通して自然界からもサラリー（自然の恵み）を得る筆者の春夏秋冬サイドビジネス“珍”日記」 技術営業部 坂井 将之

Vol.4 秋のサイドビジネス “エギング”（主に）アオリイカのルアー釣り）

釣行日：2022.9月 場所：新潟県岩船郡粟島浦村

この釣りを始めてからもう十年以上経ちましょうか。始めた当初は、一人でフィールド（釣り場）に通うも2シーズンほど全く釣れませんでした。その後、前職の先輩方と釣行して頂き“釣りグセ”が付いてサイドビジネスの営業品目に加わっていきました。

エギングの語源は、“餌(え)木(ぎ)”というエビに似た木製の日本古来のルアー（疑似餌）が由来で、餌木（eg i）に現在進行形の“ing”を付けた和製英語。イカ釣りと言えば、イカ釣り漁船のように夜に船で沖に出てライトを付けて釣り上げる印象がありますが、アオリイカは沿岸部に生息するイカで、潮の流れに乗って港や磯場、サーフ（砂浜）でも釣れ、本来、夜行性で夜しか釣れないと思われていたものが、ここ近年、日中でも釣れることが判明し手軽に楽しめる釣りとして人気が一気に高まりました。エギングをする釣り人を“エギンガー”と呼び、秋のシーズンになると釣果実績の高いフィールドは“エギンガー”でごった返すほどになり、イカの数よりエギンガーが多いと思うほどの時もあります。

新潟県には離島が2島あり、一方は全国的にも有名な“佐渡島”と、もう一方は人口350人ほどの小さな島“粟島”がありますが、今回はエギンガーでごった返すいつものフィールドに見切りをつけ、粟島へ初の離島出張に行ってきました。

粟島に上陸するや否や早速実釣開始。粟島は“アオリイカの楽園”と思っていたのに初日はまさかの1杯。その夜は民宿で鯛の船盛（皿にのってたケド・・・）で英気を養い、2日目は4時起きしたものの昼の出船時間までに2杯追加のみ・・・。エギンガーでごった返すいつものフィールドと釣果は変わらず・・・。

帰りの船の時間になると、地元の中学生在が大漁旗を振ってお見送り。船が出向しても大漁旗を持ったまま走って見送ってくれて、目頭に“熱いもの”がこみ上げ思わず心の中で「来年も来るよー！」と叫んでしまいました。（ホントに！）

釣果は悪かったけど、島の人々の温かさに触れたのでビジネス大成功



◆ちょっと豆知識◆その54「お酒 その価値」

技術営業部 取締役部長 成田 護 (mamoru@shinyo.co.jp)

新年あけましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。

2022年のビジネス上のトピックと言えば、業種関わらず「各種の値上げ」が筆頭に来るのではないかと思います。世界情勢の不安定化、エネルギーコストの高騰、円安の加速、その他「これでもか」というくらい各種要因が複雑に絡み合っただの結果だと思えますが、人類の英知でこの事態を回避できなかったのが残念でなりません。

皆様の業界においては各種資材の値上げ。また、ピンの供給体制脆弱化が大きな問題になっているとお聞きしています。

当社においてはステンレス鋼材の値上げ幅とその速度に全く対応できない時期があり、お客様にご迷惑をおかけしましたし、また当社として多くの利益を逸しました。部品関係の値上げと納期の長期化には今もさいなまれています。

それでも社員全員で知恵を出し合い、この難局を乗り越えられたことは当社にとって大きな財産になったものと思います。

2023年もご愛顧賜りますよう、改めてお願い申し上げます。

さて、残された字数で駄文を連ねます。

ご承知のように全国で新興ウイスキーメーカーが数多く誕生しています。当社が関わらせていただいているメーカー様もありますが、ジャパニーズウイスキー人気を受けてか、リリースされる製品の価格も比較的高価なものが多いように思います。

出張で訪ねた東北のある街の居酒屋での会話。

気心知れた女将から、地元でファーストリリースされたウイスキーを何とかして入手した、成田さん、3年したら倍で売れるかな？と尋ねられました。

倍くらいにはなるかも知れませんが、ああこの方たちは最初から飲む気ないのか…、と少し寂しい気持ちになりました。

昔からワインなどは投機の対象になってきましたから今更驚く方が野暮なのかもしれませんが、数年前、某清酒メーカーさんが主要紙に「お願いします。高く買わないでください。」という一面広告を打って話題になりました。正規取扱店の保護と同時に、「飲むために買って下さい」という想いも広告出稿の真意としてあったように思います。作り手として至極まっとうな心情だと思います。

一方飲み手として、数万円の酒類を胃袋におさめるよりは、プラスアルファを得て美味しいものを食べに行こうという心理も理解できます。が、何か心が貧しいなあとも思うのです。

得難い経験をするに価値を見出す、そうあって欲しいと思ったひとときでした。



“ちょっと一息”

基幹事業サポート 山本 知男

このDMはお正月用でお届けになるとの事で、先ずは明けましておめでとうございます。

昨年もコロナで明け、いつになったら元に戻るんだろうって感じてましたが、少し明るい兆しは出てきました。

それで私の所属している吹奏楽団の活動から一つお話しさせていただきます。去年は徐々に演奏機会も増えてきた中で久しぶりに依頼演奏が2カ所からあり、その依頼演奏の時に話した内容をちょっと紹介します。

その依頼演奏の中で“星に願いを”という曲を演奏しました。これはディズニー映画のピノキオの主題曲です。歌詞の中にもありますが、こうなりたいと言う強い願いや想い、夢、希望、これらは思うだけでは簡単に実現しないけれど、でもそう思って日々努力を重ねて行けば、いつかは叶う。なかなか上手く行かなくても、努力を重ねれば徐々に良くなって、その内には叶って行く。希望を持って生きて行こうという唄です。夢を持って希望を持って努力を重ねる事が如何に大事で、それが今一番必要な事なんじゃないかなって思います。

所属しているバンドもコロナの中で練習場も閉鎖されたり、演奏会予定しても無観客になったり、はたまた依頼演奏もパッタリ無くなったりで、いつになったら今まで通りの活動が出来んだろうって不安な毎日でした。

でもいつか元に戻って大勢の前で演奏する機会が来るって、練習を続けていたら、ひょんな事から依頼演奏が二つも入り、皆さんから喜んで頂き、本当に久しぶりに充実した楽しい時間を過ごせました。これからは夢を持って、地域の皆さんに喜んで頂ける演奏活動を続けて行きたいと心から思った次第です。

